

地区別意見交換会 記録(概要)

開催日時	令和元年8月20日(火) 午後6時30分～午後8時10分		
開催場所	藤原公民館 会議室		
出席議員	粉川昭一(代表者)	齋藤久幸	福田悦子
	阿部和子		
参加者数	9人 (傍聴者)大島藤原行政センター所長、齋藤藤原行政センター所長補佐、荒川礼子議員、山越梯一議員		
報告内容	地域のことを教えてください！		
市民意見	議員意見		
鬼怒川小学校の隣にある保育園に孫が入り、何度か迎えに行ったが、道のカーブがきつく危ない思いをした。隣にお風呂があり年配の方がの往来も多いので、道路を広げるなりカーブをなくすなりしてほしい。			
	詳細を調べて何か対応できればと思う。		
城の内には昔鉢山があり、鉢山の集まりでできたような集落。その名残があり、言い方は悪いが寄せ集めの集落で、昔からある集落ではないため、文化的なものはほとんど無い。唯一天王祭という子ども神輿があるが、子どもも少なく神輿を台車で引っ張っているような状況。今までは市から補助金をもらっていたが、6回までしか申請できないということで今年は断られた。地域活性化のために頑張っているのに補助金が打ち切られるのは納得できない。地域の発展にかかわるような小さな行事においても市の力を注いでほしい。補助金が無いと行事を存続できない。自治会費を上げれば可能かもしれないが、自治会員からは会費を上げてまで行事を行う必要もないのではという意見も聞こえてきているのでなかなか値上げをできない。文化的なものについての補助は永久的に出してほしいので議員さんからもお願いしてほしい。			
先の意見はまちづくり交付金のことだと思うが、例えば3つの自治会が1つの団体として申請すればまた交付金をもらえる方法もある。			
その方法は自分も説明を受けたが、なかなか自治会合同で行うのは難しいものがある。			
自分も同じように考えている。まちづくり交付金はソフト事業で3回、ハード事業で3回の計6回の交付を受けることができる。我が自治会も6回の交付を受け今年から申請ができない状況。6回で打ち切れるということは、一生懸命活動している自治会にあわせてほしい。違う形でも良いのでまちづくりに寄与する制度を作ってほしい。			
	財政が厳しい中、市は補助金の見直しをしていくということで、審議会を設置して補助金の見直しをしていくようだ。交付を受けている団体の意見も聴取したうえで判断していくと思うが、補助金の見直しを行うという方向性は市から示されている。交付を受けている皆さんがしっかりその声を審議会に届けることが大切だと思う。		
市の担当課に行き必要な事業なので6回を超える交付金を受けられないか相談したが、まだ数回しか交付を受けていない自治会もあるので無理だと言われた。活発な活動をしている自治会に合わせず制度を利用しない自治会に合わせた。			
補助金は一度なくなると新たに創出するのは困難なので、継続してほしい。			
自分の自治会は世帯数が約40戸。天王祭のほかにお不動尊のお祭りと熊野神社のお祭りがある。その他日帰りバスハイクを2回開催している。会員の高齢化で個人で出かけるのが難しいので、バスハイクがなくなると高齢者が表に出る機会が奪われてしまう。まちづくり交付金の継続を強く望む。			
川治地区は周りに旅館があるので、そこを借りて3つの自治会のお年寄りを集めて懇親を深めているが、今年で6回の申請となるので次年度以降どうするか困っている。回数を限定せずコンベ方式で良いものに補助金を交付するなどしてほしい。			
高齢者の買い物難民という言葉があるが、その言葉は鬼怒川温泉でも当てはまる。市内循環バスは学生の通学に合わせたダイヤなので、高齢者が使いにくい。もう少し買い物を楽しめるような、ここに住んでよかったと高齢者が言えるような仕組みづくりをお願いしたい。			

市民意見	議員意見
<p>自分の自治会は鬼怒川温泉駅前。SL大樹が運行したり華やかに見えるかもしれないが、世帯数もどんどん少なくなり、天王祭で子どもが自力で担げるのは中町2区と鬼怒川温泉駅前の2自治会。昔は子どもが多く担ぎたくても担げないくらいだったが、今は少ない子どもが無理に担いでいるので楽しくないようだ。町内の行事は研修旅行やレクリエーションとしてユニカールを文化会館で行っているが、文化会館も取り壊すようなので、これからどうしようかというところ。まちづくり交付金は一昨年に終了している。敬老会も貧相になってしまった。自治会費を値上げしようにも世帯数がどんどん減っていてどうにもならない。自分も市の担当者から「まだまちづくり交付金の交付を受けていない自治会がたくさんある」と言われたが、交付を受けていない自治会はやる気がないから受けていないだけあって、受けていない自治会がある限り同じ事をずっと言われ続けたいとならないのかと感じている。近隣自治会と合同で行えばまた交付を受けるとは言われても、なかなか難しいと感じていた。駅前の自治会で人の往来は多いので、毎月10日に清掃活動を行っているが、商売をここでやっている人も住んでいる人は少なく、8人の役員のうち6人はここに住んでいない。自分もその一人である。災害などが起こった時の不安はある。ホテルの従業員寮が多くあり住んでいる人は多いが自治会には加入しない。</p>	
<p>日光医療センターの前身は労働省の特殊法人である労働福祉事業団が持っていた珪肺労災病院。昭和24年にできた病院で、藤原町・栗山村が信頼を寄せてきた。平成17年に労働福祉事業団の再編計画があり、珪肺労災病院もなくなるという知らせが藤原町に届いた。藤原町が中心となり、今市市・日光市・塩谷町・藤原町消防本部・今市市消防本部・日光消防本部・塩谷広域消防が一体となり、県の医務課や消防防災課に何とか救急受入病院を探してほしいとお願いにいき、獨協医科大学が受けてくれ、日光医療センターとなった。最近になって土沢産業団地に移転するという話が出てきたが、藤原・栗山・三依にとっては大問題。これらの地域の人口は1万人、面積は市全体の約半分を占めている。鬼怒川・川治・湯西川・川俣と温泉地をかかえる観光地で、年間200万人の宿泊者が、入込客数は300万人という旅行者の救急関係も日光医療センターに委ねている。救急の体制としては、栗山や三依に救急患者がいた場合、川治分署から栗山に行き収容し、また川治を通過して日光医療センターに収容している。日光医療センターからさらに南に20キロも離れた場所に移転したら、救える命も救えない。情報によると、日光医療センターの一部の機能を残すらしいが、一部を残す程度では救急を受け入れられる病院の基準は満たさない。このような計画を進めている市のスタッフや上層部は救急のことを何もわかっていない。救急を受け入れられる病院は1次救急・2次救急・3次救急と別れている。1次救急は打撲や腹痛程度に耐えられるもの。2次救急は検査ができて入院ができて手術ができる病院。日光医療センターの一部を残すということは2次救急にも該当しない。</p> <p>市として藤原・栗山の地域住民及び観光旅行者の医療確保はどうするつもりなのか、救急無医地区になってしまう。藤原・栗山の人たちを無視している。また市の説明によると、協議会だか検討会を作ってその意見を聴いて判断すると市長が言っているらしいが、地域医療や救急は市に課せられた大きな責務であり固有事務。そのような問題を検討会に委ねて検討会が言ったことで判断されては困る。また、2次救急の話になるが、今市では今市病院と森病院、日光では市民病院、足尾では双愛病院、藤原・栗山では日光医療センターが2次救急病院。日光医療センターが土沢に移転すると、藤原・栗山地区には2次救急病院が無くなる。そのようなことは説明で一切触れていない。検討会などを作るなら、各種委員会の長などを集めても駄目だと思う。医療福祉や救急業務の知見を有する知識の高い者を集めて検討しないといけない。各種委員会の長などを集めたような検討会で検討されたのではたまたまない。現在の日光医療センターの敷地面積が狭く、他に藤原に適地がないのであれば、今市地域でも大桑など豊岡地区に適地を見つけてほしい。豊岡地区なら国道も通っているし鉄道も通っていて利便性もある。</p>	
<p>時刻を知らせる朝昼晩の鐘や音楽は藤原地域だけ鳴っていると思う。合併しても今市は鳴らない訳を知りたい。今時携帯はあるしテレビにも時刻が表示されるので不自由はないと思うが、個人的には無いほうが良い。スピーカーが近くにありうるさい。</p>	
	<p>今市には防災無線がそもそも無い。</p>
<p>防災無線なのでいざという時に放送ができないと困るので、テストの意味でも鐘や音楽を流しているはず。郷土愛の問題で自分はいっそのこと日光市の歌を流してほしいくらい。</p>	
<p>もう少し良い選曲ができないものかとは思う。</p>	
<p>放送が広く行き届くような音量なので、自宅近くにスピーカーがあるとうるさいのは間違いない。もっと小さめにスピーカーを設置して音量を下げるのがベストだとは思う。</p>	

市民意見	議員意見
	<p>今病院問題で重要な問題提起がなされたと思った。自分も日光医療センターの問題を重要視していた。珪肺労災病院から日光医療センターになる時、他の市町村もお金を出し合って来てもらったが、その際取り交わした文書では、日光医療センターの経営が順調になったら、産婦人科・小児科・脳神経外科などの医療もやりますという約束事があった。なので今回の新築ではぜひ進めてほしいと強く議院内で要望した。市の回答としては一部残すというだけではっきりとしたものはまだ出されていない。しかし日光医療センターの新築計画に沿った形でそこに日光市や栃木県が入り込んで予算化したり土地を提供したりというのが計画に入ってきている。逆に皆さんにお聞きしたい。地域医療を守るために、藤原・栗山の地域の皆さんがどのように市に働きかけるのが重要。自分が勤務していた古河記念病院も今から21年前に廃院になり全くなかった。その時日光市民は署名運動を行い1万6千という日光市民以上の署名を集め県や市にかけあったので今の日光市民病院ができたという経緯があるので、診療機能を残すために、住民主体の働きかけは非常に重要だと感じた。既に日光医療センターの工業団地への移転はほぼ決まっていると思うので、ここに機能を残すにはどうしたらよいか、どうなっているのか。</p>
<p>自分は一市民なので、どのように動いたらよいかを言う立場にない。藤原・栗山の医療確保ができなくなり救急がとんでもないことになるということを市や議員に知っていただいて、守る方向でお願いしたい。</p>	
<p>今日集まっているのは自治会関係者が多いから、要望書などを市に提出したらどうかと言っているのか。</p>	
	<p>獨協と交渉しなければならぬ問題なのでいくら市が頑張っても獨協が引き上げますと言ったらそれで終わりにになってしまう。自治会長さんたちが団結したり、栗山地域とも一緒に行うなど、何かしかりとした形で要望したほうが市も真剣にとらえてくれると思う。</p>
<p>医療を守るのは市の固有事務。要望を出すというのは2次的なもの。要望しないとか動かないというのはおかしい。</p>	
	<p>各方面から攻めていくとより大きな力になるという意味に捉えてほしい。</p>
	<p>今日参加している議員は切羽詰まった状況がよくわかったし、藤原地域出身の議員も全員協議会などで執行部に訴えている。なので地元でも何か動いたほうが良いのではということが言いたかった。</p>
	<p>協力法人と言って今市病院や森病院などを含めた形で日光の医療体制をどう分け合って維持していくかということ、市が中心となって協議されている。完全撤退というのは市も議員も考えていない。観光地であるこの地域にどういった形で残さなければいけない。日光市では本当大きい病気になるたら宇都宮や壬生に行かなければならないので、民間病院が規模拡大をしてくれるということをつぶすわけにはいかない。日光市全体を考えて、救急体制を整えるためにはある程度の規模が必要だと考えている。自分も子どもをかかえた時期に古河記念病院が無くなった。その時は一市民だったが、市長にまでかけあった。力を合わせれば局面が変わっていくこともある。</p>
<p>藤原は観光客があって成り立っているところがあると思う。観光客の声も聞こえてくるが、雨が降った時に子どもを遊ばせる場所が無いという声が多い。テーマパークなどもあるが、値段が高い。何か良いアイデアがあればと思う。</p>	
<p>藤原から買い物に今市に行くことが多いが、今市の商業地区は七本桜・芹沼・大谷向・今市大通り、JR今市駅～東武下今市駅～大通り～七本桜～並木大橋～芹沼～大谷向～今市大通り～といった循環バスを運行してくれたら良いと思う。また、防災無線の話があったが、かつて町の時代は自治会単位で放送することができたが、現在のシステムは行政センター単位でしか放送できなくなった。自治会単位の連絡ができる無線システムにしてほしい。</p>	
<p>近年は行事への集まりが悪くなった。かつては自治会単位での放送ができたので放送すれば集まってくれた。年4回ある清掃については欠席者からは千円徴収する仕組みになっているが、忘れた人から千円を徴収できない。放送設備があればそのようなことが起こらない。今はハンドマイクで町内を回り周知しているので何か対応策をお願いしたい。</p>	

市民意見	議員意見
	<p>雨天時に子どもを遊ばせられる場所として、今市ならばイオンに大規模で有料ではあるが安価な遊び場所がある。話は変わり市の財政の話になるが、財政調整基金という貯金のようなものが令和9年度頃にはなくなって赤字財政になる可能性があるのも、毎年数億円単位の財政を縮小しなくてはならない。昨年度は4500万円しか削減できなかったが、例えば敬老祝い金を半額にするなど、そこまですべて行っている。このような事態を招いたのは自分達の責任もあるが、これ以上皆さんの生活を圧迫させないために、何が必要で何を削っていかねばならないのか、皆さんも一緒に考えていただきたい。</p>
<p>下野新聞に財政赤字の団体になるとの記事が掲載されたのはみなさん知っていると思う。あのように報道されると、人口減少に歯止めがかからなくなる。財政状況が悪いのは理解するが、それを大げさに出してしまおうと、新たに家を建てようとする人はあえて日光に建てることはしないだろう。鬼怒川温泉も廃ホテルの報道がテレビでなされると、お客さんが減ってしまうのと同様で、過剰な宣伝は避けるべきだと思う。</p>	
<p>財政難だと言っているが、行政内部での努力はしているのか。職員が何人いて果たしてそれだけの人数が必要なのか。本庁舎も新築したが、1階の広い空間は何のためにあるのか疑問だし、あの空間を執務室にすれば4階建てにする必要もなかっただろう、通路も不必要に広い。あれだけ立派な庁舎を建てれば財政難になるのは当然だと思う。市長が建物の整理をしようとしているようだが、それだけお金をかけて建物を撤去する必要があるのか。内部の努力をしてもらって我々にわかりやすい説明をしてほしい。将来自分達に負担がかかりますよという脅し文句のようになっているのは納得いかない。</p>	
	<p>庁舎整備などをはじめ、国や県の補助金・合併特例債などを活用しており、すべて市の税金を投入しているわけではない。本庁舎は防災拠点として避難所としての活用や市民交流スペースとしての活用を見込んでおり、将来職員数が減った際には東庁舎を壊して本庁舎に入るところまで見込んでの広さとなっている。財政難の報道は極端な表現かもしれないが、共通認識として危機感をもっていきましょうと理解していただければと思う。</p>
<p>【班としての総括・所感】 藤原地域での意見交換会は、参加者の多くが自治会役員であった。一般参加の方は、要望事項があったことが参加の動機となった様で、「地域のことを教えてください」がテーマであったが、多くが要望陳情の場になった事は否めなかった。 意見交換会の中では、人口減少に伴う地域の課題が多く出され、人口減少は日光市における最重要課題だと認識をした。また、特に高齢者の買い物・交通・医療などの切実なお話を伺い、この地域の課題を理解することが出来た。 地域行事では、各地域でお祭りや自治会行事などを行っているが、ほとんどがまちづくり活動支援事業費補助金により行われており、通算6回で打ち切りとなる制度の延長を求める声を多く寄せられた。人口減少による担い手不足の中で、地域行事の維持に取組んでいるが、自治会役員を始め、支えている方の人的・経済的の苦勞を理解することが出来た。この事は、市内各地域にも当てはまる事であり、貴重な地域の伝統行事に対する支援策の拡充の検討が必要だと考える。</p>	
<p>【今年度の地区別意見交換会についての課題】 自治会役員の参加がほとんどとなり、性別・世代別など多様な参加者を募る工夫が必要と考える。各種団体などへの呼び掛けが不足しており、大きな反省となった。 また、要望事項が多くなる事は、市民の要望を受け止める方法に課題があると考えべきであり、議会として意見交換会等で、市民の要望を受け止める体制の必要性を感じた。 また、意見交換会にて、参加者より寄せられた意見は、議会として受け止めて対応し、その経過と結果を報告する必要があり、声を届けようと参加された市民の期待に応える様に努める必要を再認識した。</p>	
<p>広報広聴委員長 様 上記のとおり、報告いたします。</p> <p style="text-align: center;">令和元年12月20日</p> <p style="text-align: right;">第2班 代表者 粉川 昭一</p>	